

## ～ 【 AI時代を迎えて 】 ～

死刑になりたかったのが、電車の中で無差別殺人・放火事件を起こしたり、それを模倣して同様の事件を起こしたり、あるいは親を殺したり、子どもを殺したり、最近、そんなニュースばかりで本当に気が滅入っています。「今の若者ときたら・・・」と年長者が若い世代を批判的にとらえることがよくありますが、こうしたモラルの低下は若者に限らず、全世代にわたって進行しているようです。「身勝手」「自己中」、一言で片づけられるほど簡単な問題ではありません。日本人の道徳心は一体これからどうなっていくのでしょうかとても心配です。



モラルの維持、向上のためにはご家族の協力なしにはあり得ません。テレビや新聞のニュースを話題として、これについてどう思うか、どうすべきかをご家族で話し合う機会をぜひとっていただきたいと思ひます。一度や二度ではあまり効果はないと思ひますが、こうしたことが習慣となり、繰り返す中で、子どもさんの中にいつの間にか道徳心が育ち、行動様式として現れてくるものです。人としての生き方を伝授してください。

さて学習指導要領が改訂され、中学校では本年度から実施となりました。改訂のポイントの一つが「非認知的能力」の育成です。「非認知的能力」と書くと何やら難しそうで、哲学めいたイメージですが、言い換えるとAIなどが実行できないような「人だけが達成できる能力」ということです。具体的には、・協調性・目標達成力・やり抜く力・粘り強さ・自制心・人とうまく関わる力・感謝する力などがそれにあたります。

AIの驚異的な進化で近い将来たくさんの職業がAIによって代行されると予想されています。そして代行されるのは点数やIQなどで表すことのできる能力を要する業務とされています。そんな時代に子ども達が生きていくためにはAIが持つことは絶対に不可能な能力を持つていなければなりません。それが「非認知的能力」というわけです。

学校の授業も明らかに変わりました。タブレットを利用した情報収集、情報発信、情報交換が当たり前になりました。私達が中学生の頃は50分間、先生の声とチョークの音だけが教室に響いていた

ものですが、それとは隔世の感があります。こうした授業スタイルの変化も、その目的の一つに「非認知的能力」の育成があることは言うまでもないことです。

情報端末を駆使することはひょっとしたら先生方以上に生徒の方が上手かもしれません。いろいろな使い方を発見し、工夫し、それを発信してほしいと思ひます。それがAI社会を生き抜く力になっていくはずで、(ただし目的外の使用は厳に慎んでほしいと思ひます。お父さん、お母さんが収めた税金で買われたものです。罰当たりなことは決してしないようお願いしたいですね。)

タブレットを使いこなして、人間力をアップさせましょう。それが日本の明るい未来につながります。

## ～ 【 中間テスト終了! 】 ～

今日中間テストが終わりました。テストの終わりを告げるチャイムの音を聞いた瞬間、「終わったー!」「きつかった!」「今夜はゆっくり寝れる!」と達成感に満ちた生徒は何人いたでしょうか。生徒の皆さん、どうでしたか。

子ども達と試験勉強について話していると「やってもどうせ・・・。」とつぶやく生徒がいます。案外こんな生徒は多いのではないのでしょうか。

でもこれで大丈夫なのでしょう。いつかこの紙面でも書いたと思ひますが、人は生きていく中でたくさんの人と出会います。親として、子としての出会いからスタートし、無数の出会いがあります。同時に無数の別れがあります。今、自分の身の回りを見て、この人とはずっとと思ひていても、必ず別れの日がやってきます。

一生、ずっと一緒にいれるのは自分自身しかありません。その自分自身を、わずか14、5歳の若さで見捨ててしまつては、これから80余年、誰が自分を支えてくれるのでしょうか。

もちろん国数社理英の成績と幸福度が比例するとは限りません。しかしそれに向けてひたむきに頑張れた

自分を青少年時代に見つけることができたなら、一生自分を支えてくれる、「自信」という「応援団」を味方にすることができるのです。自分を見捨てるようなことは決してないように、生徒の皆さん。

